

小さな願いを受け止めて社会につなげる —東京YWCAのきょうだい児支援のこれまでとこれから—

障がい児「きょうだいの会」は、板橋センターで行っている親同士の情報交換の場「いどばた」、きょうだい児（障がい児の兄弟姉妹）が主役になって思い切り遊ぶ「きらりんこ」、家族で楽しむ「ふあみりんこ」の3つの活動で、きょうだい児と家族を支援している東京YWCAの事業です。大人数でバーベキューを楽しんでいた「ふあみりんこ」は感染予防のため現在休止していますが、「いどばた」と「きらりんこ」は年4回の活動を続けています。

「いどばた」は、今は「きらりんこ」のお迎えに合わせて実施しています。きょうだい児と障がい児の子育ての中で抱えている日頃の思いを話したり、「自分はこうしている」と情報やヒントが交換されています。インターネットで見つけて参加される方がいたり、きょうだい児支援に関心のある関連機関の方が同席することもあります。

「きらりんこ」は5歳以上のきょうだい児を対象に、ボランティアリーダーたちが計画する多彩なプログラムを行っています。きょうだい児に我慢をさせがちなので思う存分遊ばせたいという親の願いを受けた理念は代々リーダーたちに引き継がれ、真面目で頑張り屋さん、相手の気持ちに寄り添う力があつて気遣いができる“過ぎる”傾向のあるきょうだい児たちに心の底から楽しんでもらえるよう様々な工夫を凝らし、一人ひとりをしっかりと受け止めて楽しい時間を過ごしています。

この活動は最初親たちの自主的な活動で、板橋センターを改築し新たなスタートを切った2003年に「この活動を長く安定して続けたい」という願いを受け、東京YWCAの事業として「いどばた」からスタートしました。板橋センターにある障がい児の療育機関「キッズガーデン」との連携も支えとなっていました。キッズガーデンとして板橋区の障がい福祉計画策定委員会に参画し、その中できょうだい児支援についての提言もし、東京YWCAの取り組みが評価されたことで「板橋区障がい者計画2030」にきょうだい支援が盛り込まれました。それを受け2025年3月に板橋区と「『きょうだい児』支援体制構築に関する協定」を締結しました。6月に親対象の講演会、7月にきょうだい児対象のプログラムを区が実施し共催団体として協力しました。それぞれ参加者は5人前後で、啓発とニーズの掘り起こしの必要性を改めて感じたものの、参加者の満足度は

高く良い会となっていました。

障がい児「きょうだいの会」の立ち上げメンバーであるお母さんたちの願いは、きょうだい児支援が自分たちに留まらず広く届くことでした。板橋区が行政として先駆的に取り組みを始めたことは、この願いの実現に一歩近づいたことになります。今後、きょうだい児への支援の必要性がさらに社会で認知され、きょうだい児とご家族がそれぞれ笑顔で過ごしていく様子に、これまでの経験とご家族の声を板橋区につなげ、また東京YWCA独自事業としての障がい児「きょうだいの会」の活動を大切に続けていきます。

五十嵐菜々子（職員）